

スカウト おおいた

第59号

2021年 1月 11日 発行
日本ボーイスカウト大分県連盟
編集 県連総務委員会

新年ご挨拶

公益社団法人

日本ボーイスカウト大分県連盟

理事長 戸高有基

三指

令和3年の新春を迎えご挨拶を申し上げます。昨年初めより、新型コロナウイルス感染症の蔓延により世界中が不安と混乱に陥りこの対策に終始しました。夏に開催予定でありました東京オリンピック・パラリンピックも延期となるなど、多くの行事が延期または中止となりました。

我々ボーイスカウトの活動も制約され、感染対策に取り組んでの活動となりました。多くの団及び隊集会ではご苦勞をされたことと思います。この様な環境の中で、スカウト達はそれぞれの課題にチャレンジし、菊・隼への上進を果たしたスカウトも立派でした。

ボーイスカウト運動の目的は、『スカウト精神』である「ちかい」と「おきて」の理解・実践にあります。



英国で発祥したこの運動は、青少年の健全育成を目指して広く世界中に発展し、現在約4000万人のスカウトが参加しています。また、多くの経験者が社会のリーダーとして活躍してきました。我が国でも来る令和4年(2022年)に日本連盟創立100周年を迎えます。

この間、多くの子どもたちがスカウト運動を通じてスカウト精神の実践に努めてまいりました。日本連盟初代総長の後藤新平は『自治三訣』で「人のお世話にならぬよう、人のお世話をするよう、そして酬いを求めぬよう」と言っています。簡単な言葉ですが、それぞれが日ごろから心がけ実践することが大切です。

2度の世界大戦を経験しても、地球上では依然として人種・宗教・地域間の争いが絶えません。現在、国連を中心にSDGs(持続可能な開発目標)の運動が行われています。17のゴール(目標)と169のターゲットを示しボーイスカウトもこの運動に参加しています。将来のより良い地球環境を残して行けるように、また、私たちに与えられた使命として挑戦していきたいと思えます。

この運動の発展と各団・隊の発展、スカウトのご健勝・ご活躍を祈念して新年のご挨拶と致します。

弥栄

進級章〔菊章〕 交付

菊スカウト章を取得された2名のスカウトです。誠におめでとうございます。

菊スカウト章

弓長 蒼也

中津第8団

金子 愛実

大分第9団



第7回 ビーバーフェスティバル

第7回ビーバーフェスティバル

令和2年11月3日 別府公園にて開催

参加者ビーバースカウト18名、マスコット11名

「ビーバーの鬼たいじ」をテーマに、チームに分かれて
チェックポイントでゲームを行いました。



第7回 カブフェスティバル

第7回カブフェスティバル

令和2年11月8日 別府公園にて開催

参加者カブスカウト65名

「コロナに負けるな」をテーマに、各組毎にチェック
ポイントでゲームを行いました。

ゲームの第1位は中津第8団1組でした。



ボーイスカウトと遊ぼう！

ワクワク自然体験あそび

今年度、文部科学省から委託を受けて開催されるもので、新型コロナウイルス感染症の流行による子どもたちの屋外活動の減少や未知の感染症への不安の高まりを考慮し、各地の感染状況や感染防止に十分留意した上で、自然の中での体験活動を全国合わせて850超の会場での実施を予定しており、最大級の規模の受託となっております。

大分県内におきましては、

- ①11月3日にビーバーフェスティバル（別府公園）
- ②11月8日にカブフェスティバル（別府公園）
- ③12月13日に津久見会場（つくみん公園）
- ④12月27日に中津会場（中津教育福祉センター）
で開催し、たくさんの参加者に体験して頂きました。



「2020年をふり返って」

中津第8団



10月くじゅう登山

紅葉を眺めながらのくじゅう登山きつても登頂するのが楽しいんだ！っと
きらきらした瞳のスカウト達が印象的！

11月カブフェスティバル
カブラリー優勝メダルを胸にご満悦のスカウト達
今日の気持ちを忘れずに常に誇り高きスカウトであれ！



12月お楽しみ会

クレープ作り&ソング練習クレープが上手く焼けずに「ヤケクソ」になりながらも、作る楽しさを体感しました。



別府第9団



別府公園で行われた第7回カブフェスティバル。コロナに負けず元気でラリーに挑戦しました。

カブラリー後のお昼ご飯も密にならない様に。楽しかったね。



今年のクリスマスは、団委員長のお手製マスクとリーダーのアドベントカレンダーをプレゼントしました。

大分第1団



10月カブ隊はハロウィンナイトハイクへ。目的地到着後はパーティー！コロナ対策も万全で楽しみました。





1年前には全く想像出来ない価値観の中、団で工夫をし活動しました。11月22日には佐伯大入島にて団ハイクを行いました。

大分第2団



冬晴れの下、高崎山にて12月6日(日)に団行事「よろこびの集い」を開催しました。ビーバーからローバーまで縦割りグループを編成し、登山・ゲーム等を行いました。



ビーバー隊入隊式を行いました。



山頂へ向けて出発!

大分第5団



(写真撮影の為マスクは外しています)

大分第5団は今年65周年を迎えることができました。

12月13日に記念大会と毎年恒例団行事餅つき演劇会を開催しました。もちつきは中止とし演劇のみとしてスカウト全員で楽しみました。

コロナ禍の中、感染予防をしながらの大会でした。久しぶりの団活動でみんなの元気な顔が見えて安心しました。

大分第9団



救急法講習会に参加させて頂きました。非常に実践的な内容でスカウトも真剣に講習を受講していました。



大分9団ベンチャー隊は大入島にて釣りキャンプを実施しました。コロナ禍の中でのソロテント泊です。釣果は上々！お土産をいっぱい抱えて帰る事が出来ました。

由布第2団

令和2年は、由布第2団のスカウト活動は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、大きな影響を受け、各隊の活動の制限や中止等に至りました。しかし、「新しい生活様式」を取り入れた「新型コロナウイルス感染症の状況であっても、事前の準備と感染対策を行って、出来るスカウト活動は実施する」を基本に活動を行いました。



ビーバー隊合同音楽発表会(別府第9団・大分第1団・由布第2団)



カブ隊紅葉ハイキング(キノコや栗の採取と料理)



ボーイ隊湯布院キャンプ(由布岳を背景にした眺望のキャンプ場)

津久見第1団



自然体験あそび津久見会場へは、たくさんの参加者に来て頂きました。津久見第一団スカウトは、凧作りのお手伝いに大忙しでした。



今年は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため歳末助け合い募金が中止となり、クリスマス会だけの開催となりました。新しく入団予定のみなさんもいっしょに参加して、特製チキンをいただきました。



今後の予定

スカウトフェスティバル

1. とき 令和3年 1月24日 日曜日
2. ところ 大分市内中心部
3. 参加対象 ボーイ隊を対象に

4. 内容

ボーイ隊を対象に「スカウトフェスティバル」を開催します。内容は、大分市中心部を広域に移動するゲーハイクです。「2万5000分の1」の地図を利用し座標を読み、「目的地とルート」を自分たちの班で決めるというものです。

テーマは「お屋形様からの挑戦」

ボーイ隊はどんなことに挑戦するのでしょうか?!

第10回 九州・沖縄野営大会

令和3年(2021年)夏、宮崎県都城市で開催が予定されていましたが第10回九州・沖縄野営大会につきましては、令和2年12月の九州・沖縄ブロック会議(オンライン)で以下のように決定しましたのでご連絡致します。

2021年8月の開催は中止とし
期間を定めない延期とする

提案理由

新型コロナウイルスの感染拡大により、アフターコロナの状況下におけるジャンボリー・キャンポリー等の数百人・数千人規模のスカウトを参加させる野営大会の開催形態について検討が必要である。この検討はブロック内にとどまらず国内、および国際的にも認められた方針を待つ必要がある。

上記の状況のため、本大会の野営生活にかかる施設・配給等の内容について処り所が得られず、準備できない状況にある。

新型コロナウイルス感染への対応について

(12/27 付け日本連盟—注意喚起より抜粋)

新型コロナウイルス感染については、感染拡大の増加により医療機関の病床のひっ迫がさらに深刻化しており、「ステージ4」の指標を7都道府県で超えています。

すでに該当地域の県連盟、地区、団では、活動自粛の判断などをいただき、ご対応いただいておりますが、今一度、スカウト関係者におかれましては、各地域の状況に応じた対応を引き続き行うようお願い致します。

記

〈スカウト活動における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン〉

「スカウト活動における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を確認いただき、ご対応下さい。

<https://www.scout.or.jp/member/covid19>

[_scout_guideline/](#)

※ステージ4は、爆発的な感染拡大及び深刻な医療提供体制の機能不全を避けるための対応が必要な段階です。ステージ4にある地域については、文部科学省からの学校の行動基準でも感染リスクの高い強化活動は行わない等が示されています。

各都道府県での地域状況、要請などに従い、活動自粛のご対応をお願いします。

〈活動における配慮事項〉

1. 地域の感染拡大状況を注視し、スカウトたちの安全を第一に考えた活動を行う。
2. 活動内容の変更や延期、中止を視野に入れ、地域社会における感染拡大のリスクを高めないように努める。
3. 関係者全員(スカウト、指導者、ご家庭など)が、「新しい生活様式」の徹底に努める。

〈感染拡大の可能性がある場合〉

1. 感染リスクはゼロにならないことを前提として、スカウト活動に関連した活動で、感染が拡大した、もしくは拡大の可能性が疑われるような事態があった場合は、関係者は各組織を通じた連絡(団→(地区)→県連盟→日本連盟)を速やかに行う。
2. この際に、感染者及びその家族等への差別・偏見・誹謗中傷などが生じないように十分にサポートする。